日本赤十字九州国際看護大学/Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

九州ブロックN系列病院における看護職者のキャリア形成に関する学習ニーズ調査

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本赤十字九州国際看護大学 公開日: 2013-01-17 キーワード (Ja): 看護職者, キャリア形成, 学習ニーズ キーワード (En): Nurse, Career Development, Learning Needs 作成者: 山本, 捷子, 本田, 多美枝, 寺門, とも子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15019/00000137

著作権は本学に帰属する。

九州ブロックN系列病院における看護職者のキャリア形成に関する学習ニーズ調査

Analysis of the Learning Needs for Nurses Career Development
—An Investigation on N-Hospitals in Kyushu Block—

山本捷子　本田多美枝　寺門とも子
Shoko Yamamoto, Tamie Honda , Tomoko Terakado

日本赤十字九州国際看護大学
The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing

キーワード：看護職者、キャリア形成、学習ニーズ、
Key Words : Nurse, Career Development, Learning Needs,

<要旨>

九州ブロックN系列9病院に働く看護職者に対し、看護職のキャリア形成に向けた学習ニーズの実態を明らかにするために質問紙調査を行った。有効回答数は482名で、結果の概要は以下のとおりであった。

1）約6割以上の人は職務満足が高く、今後の職業継続意志を持っているが、迷っている人も3割と比較的多かった。2）キャリア形成の条件である家族のサポートは良好だが、職場の学習意欲を促進するような雰囲気や同僚の理解などは5割程度であった。3）学習活動では院内外の研修会参加、専門書の購入は多いが、学会参加は比較的少ない。4）取得したい資格は専門看護師、認定看護師、中でも「がん看護」「救急看護」が多い。5）希望する学習の内容には、医学的知識、人間の尊厳・倫理に関すること、人間関係に関することなど、質の高い看護を志向するものが多かった。

九州ブロックN系列の看護教育機関として、看護職者のキャリア形成と学習ニーズに応えるための示唆が得られたと言える。

Ⅰ．はじめに

わが国の看護系の4年制大学は1952年開学の高知女子大学を嚆矢とするが、その後25年間の発展は緩やかで、1986年に日本赤十字看護大学が開学した時には11校程であった。しかし、その後、人口構造や国民保健ニーズの変化に対応した高度な看護が求められるようになり、この10数年間に看護教育の大学化が加速度的に進み、2003年には国公私立合計106校となった。その上級課程である看護系大学院の修士課程は66課程、博士課程も19課程が開設されている[1)]。また、看護専門学校や短期大学からの編入学制度を併設する大学も増加している。

現任教育においても日本看護協会が認定する専門看護師や認定看護師制度、看護管理者教育をはじめ、その他の機関によるケアマネージャー、リスクマネージャー、治験コーディネーター、救急救命士など、看護職が関係する資格や職種が登場し、その教育コースも準備されている。これらは社会が要求する看護職の役割の変化であると同時に、看護師のもつ学習ニーズにも大きな影響を与えている。

わが国の看護職免許は終身免許であるため、生涯にわたって就業することが可能であり、キャリアを発達でき得る職業でもある。平井は『看護職のキャリア開発』の中で「基礎教育を終えたばかりの看護師や、若い年代層の看護師には多様な人生設計があり、臨床現場と彼らの多様なキャリアニーズのあり方には少なからず不協和音が生じているようである」[2)]と述べ、また中高年看護師のキャリアに関するニーズの調査は行われていない現状であることを指摘している。

さて2004年現在、日本赤十字系の看護大学・短大は8校設立されており、日本赤十字社の事業を行なう上で必要な看護教育や臨床看護実践の向上に寄与することが期待されている。本学も第6（九州沖縄）ブロックにおける唯一の看護教育機関であり、さらに基礎教育課程と実践現場が効果的に連携し、看護職者のキャリア形成に寄与する役割の一端を担っている。

そこで、これから看護職者のキャリア形成支援のために、学習ニーズの把握がまず必要であると考え、今回九州ブロック病院におけるニーズ調査を行い、その結果に分析考察を加えた。

Ⅱ．研究方法

A．**研究対象**：九州ブロックN系列9病院に勤務する各病院の2～8セクション勤務の看護職者全員（看護助手を除く）。内科系・外科系・その他の3分野に分けて、対象者ができるだけ均等になるようにサンプリングを行った。サンプルサイズを考慮し、各施設の看護職者の約70％を対象とした。

B．**調査の枠組み**：文献[3)4)]検討を経て、図1に示すような枠組みにもとづいて調査項目

を決定した。

① 対象者の特性（年齢、性別、婚姻状況、子供の有無、最終学歴、看護基礎教育機関、取得免許、臨床経験年数、職位、勤務部署）

② 社会的支援（家族および職場のサポート）

③ キャリア志向（現在の学習状況、職業継続意志、職務満足、希望進路）

④ 学習ニーズ（取得希望の学位や資格、専門にしたい看護の分野、学習を希望するトピックス）

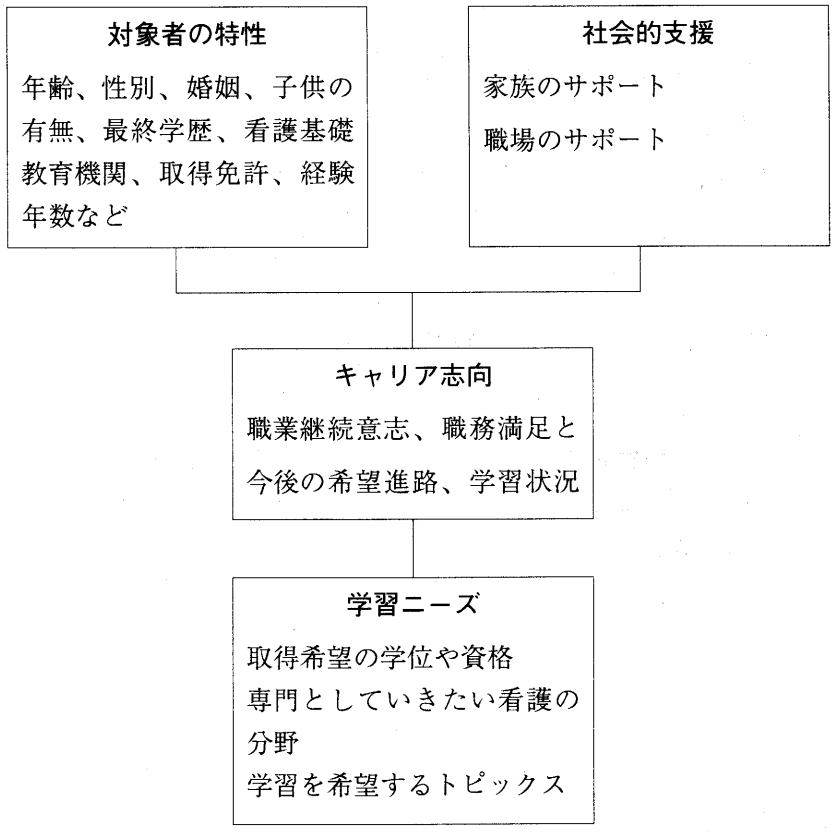

図1．学習ニーズ調査の枠組み

C．**調査方法**：独自の調査表を作成し、プレテスト後の修正版を本調査に使用した。各施設の看護部長宛に調査表を送付し、研究者が指定した病棟に病棟単位毎に配布後、回収は個別に郵送する方法で行った。

D．**調査期間**：平成15年3月～4月

E．**分析方法**

SPSS 11.0Jを用いて分析を行った。学習ニーズの中の学習を希望するトピックスについては、文献検討[3)4)]を経て41項目（【看護の専門的知識・技術】に関するもの23項目、医学的知識や社会福祉に関する知識など【専門基礎】に関するトピックス8項目、哲学や心理学、語学など【一般教養】に関するトピックス10項目）を抽出し、現在学習

したいと思う程度を4段階評定で提示してもらった。データの分析にあたっては、各項目の平均値を算出し、平均値が2.0以上（非常にそう思う、多少そう思う）であれば学習ニーズがあると判定でき、点数が高いほど学習ニーズが高いことを示しているとした。

F．倫理的配慮

調査表の表紙に、研究目的や意義についての説明を記述し、対象者に理解してもらい、同意が得られた場合のみ、研究への参加協力を求めた。また研究対象となるかどうかの選択が自由意志であることを書面に明記し、選択しなかった場合にも、対象者には不利益にならないことを保障した。対象者のプライバシーを保護するためにデータはすべてＩＤで管理し、個人が特定できないようにし、研究者以外はデータを見ることができないように管理を徹底した。質問紙の配布を施設代表者に依頼するため、回収等に何らかの影響が加わる可能性もあり、その対処として回収については各個人での郵送とした。

Ⅲ．結果

9病院への配布数973部。回収数は485部で回収率49.8％であった。うち有効回答数は482部で有効回答率99.4％であった。

A．対象者の特性

対象者の年齢は、21～62才（平均32才）であった。性別は、女性468名（97.1％）、男性14名（2.9％）であった。婚姻状況は、未婚307名（63.7％）、既婚は174名（36.1％）で、144名（29.9％）は子どもがある。 最終学歴は、83.0％が高等学校卒で最も多く、次いで短期大学卒7.9％、4年制大学卒は4.8％（23名）で、大学院修士課程修了は0.8％（4名）であった。

看護系学歴では、3年課程看護専門学校が68.5％で最も多く、次いで2年課程看護専門学校18.7％および2年課程看護短期大学1.2％であった。3年課程看護短期大学卒は3.9％、4年制看護系大学卒は2.7％であった。

取得免許は、看護師免許が98.8％、准看護師免許7.1％、保健師免許4.6％、助産師免許6.6％であった。その他、専門看護師は1名、認定看護師は4名であった。それ以外の資格では、介護支援専門員、思春期相談員、糖尿病療養指導士などが5.2％であった。

経験年数は、7ヶ月～42年（平均10年、SD＝8.34）の幅があり、10年以上が39.2％で最多であった。現在の勤務場所は内科系38.0％、外科系34.2％、産婦人科系7.7％、小児科3.9％、外来2.9％、その他12.9％であった。現在の勤務場所での勤務期間は、1ヶ月～20年（平均3年、SD＝2.91）で全体的に短い傾向にある。

B．社会的支援

家族のサポートについては、「必要なときに得られる」80.7％、「行動や考えに賛成し

支持してくれる」79.8％、「将来の事を話し合うことができる」が67.6％、「話をよく聞いてくれて落ち着く」76.1％と、多くの場面でポジティブな意見が多かった。職場のサポートに関しても概ね肯定的であった。具体的には「希望する学習活動に上司は理解を示してくれる」69.7％、「上司は将来のことや学習についてアドバイスをくれる」50.7％、「研修会への参加について上司は具体的な調整をしてくれる」65.3％と、全体的に上司はサポーティブであると受け止められていた。また「職場は学習意欲を促進するような雰囲気がある」「同僚は将来のことや学習に理解を示してくれる」など、約5割が肯定的であった。

C．**キャリア志向**（表1参照）

1．職務満足と今後の希望進路

職務満足については、「満足」60.0％、「不満」は11.8％であったが、「どちらともいえない」と答えた人も27.8％存在している。看護職として今後の進路については、60.6％の人が「現職のまま今の仕事に必要な学習を進めたい」と答えている。次いで「仕事をいったん離れて専門的な学習をしたい」と答えた人は10.2％であった。その一方で、「今のままでよい」とする人は7.7％のみであった。

2．職業継続の意志

「今後も看護職を続けていきたい」と思っている人が65.4％であった。「継続意志がない」8.1％、「わからない」と答えた人が26.1％おり、仕事を続けるかどうか迷っている人たちの存在も浮き彫りになった。

「継続意志がある」と答えた人の理由では、65.4％が「経済的理由」で最も多く、次いで「やりがいや充実感があるから」59.7％、「自分自身を成長させる仕事だから」55.9％、「この仕事が好きだから」47.6％と、看護職の意義を理由にする人が多かった。

一方「継続意志がない」の理由では、「体力的につらい」64.1％、「夜勤がある」53.8％、「仕事が多忙」51.3％、「仕事の割に給与が低い」46.2％となっており、看護業務や勤務条件の厳しさがその理由に挙げられている。

3．学習状況

院内研修会参加度は90.9％と高く、1年間の参加回数1～20回（平均4.2回、SD＝2.7）とばらつきがあった。院外研修会には69.5％が参加しており、1年間1～15回（平均2.5回、SD＝1.9）であった。この1年間に学会に「参加した人」は24.9％であり、63.1％は全く参加していない。またこの1年間に研究を「実施した・実施している」と答えた人は37.6％であるが、55.2％はしていないことがわかった。専門雑誌を定期購読している人は21.6％、この1年間で専門書を購入した人は63.7％、年間の購入冊数は1～20冊（平均3.5冊、SD＝2.6）であった。現在、通信や夜間などの大学に在籍している人は6.4％で、在籍期間は1～7年（平均2.5年、SD＝1.6）であった。

表1　キャリア志向

看護職であることの満足	度数	%
非常に、やや満足している	289	60.0
どちらともいえない	134	27.8
あまり、全く満足していない	57	11.8
NA	2	0.4
看護職継続の意志		
有り	315	65.4
無し	39	8.1
わからない	126	26.1
NA	2	0.4
看護職としての今後の進路		
今のままでよい	37	7.7
現職のまま今の仕事に必要な学習を進めたい	292	60.6
仕事をいったん離れて専門的な学習をしたい	49	10.2
わからない	80	16.6
その他	15	3.1
NA	9	1.9

D. 学習ニーズ

1．取得したい学位や資格

希望が多いのは「専門看護師」が92.5％、「認定看護師」83.0％であった。その他に「ケアマネージャー」19.4％、「救急救命士」8.4％が挙げられていた。保健師、助産師の資格取得希望は、それぞれ6.5％、3.4％にとどまった。また、学位取得の希望では、看護学士が4.3％、看護学修士が3.9％、看護学博士は0.6％、合計8.8％であった。看護系以外の学位では、学士3.4％、修士1.9％、博士0.6％であり、合計5.9％の人が希望していた。

希望の多かった「専門看護師」について、その内訳を見ていくと、90.0％が「がん看護」を希望しており、他の領域より圧倒的に多かった。一方、「認定看護師」については、71.5％が「救急看護」を希望しており、次いで「ホスピスケア」4.4％であった。

2．専門としていきたい看護の分野

「今後、どのような分野の看護をしたいか」という質問に対しては、「成人看護」10.4％、「ホスピスケア」10.2％が上位を占めていた。次いで「老人看護」7.7％、「ICU・CCU看護」6.8％、「がん看護」6.2％であった。

3．学習を希望するトピックス（図２参照）

41 項目のうち、学習の希望が多い平均値 2.0 以上のトピックスは 17 項目挙げられている。中でも「救急場面に対応できる知識・技術」（平均値 2.63）、次いで「看護の質を維持、向上するために必要な知識・技術」（平均値 2.43）、「ターミナルケア」（平均値 2.37 ）、「感染予防に関する知識と技術」（平均値 2.28）、「看護記録を行う上での表現力、文章力、レポートのまとめ方」（平均値 2.27 ）が上位を占めていた。

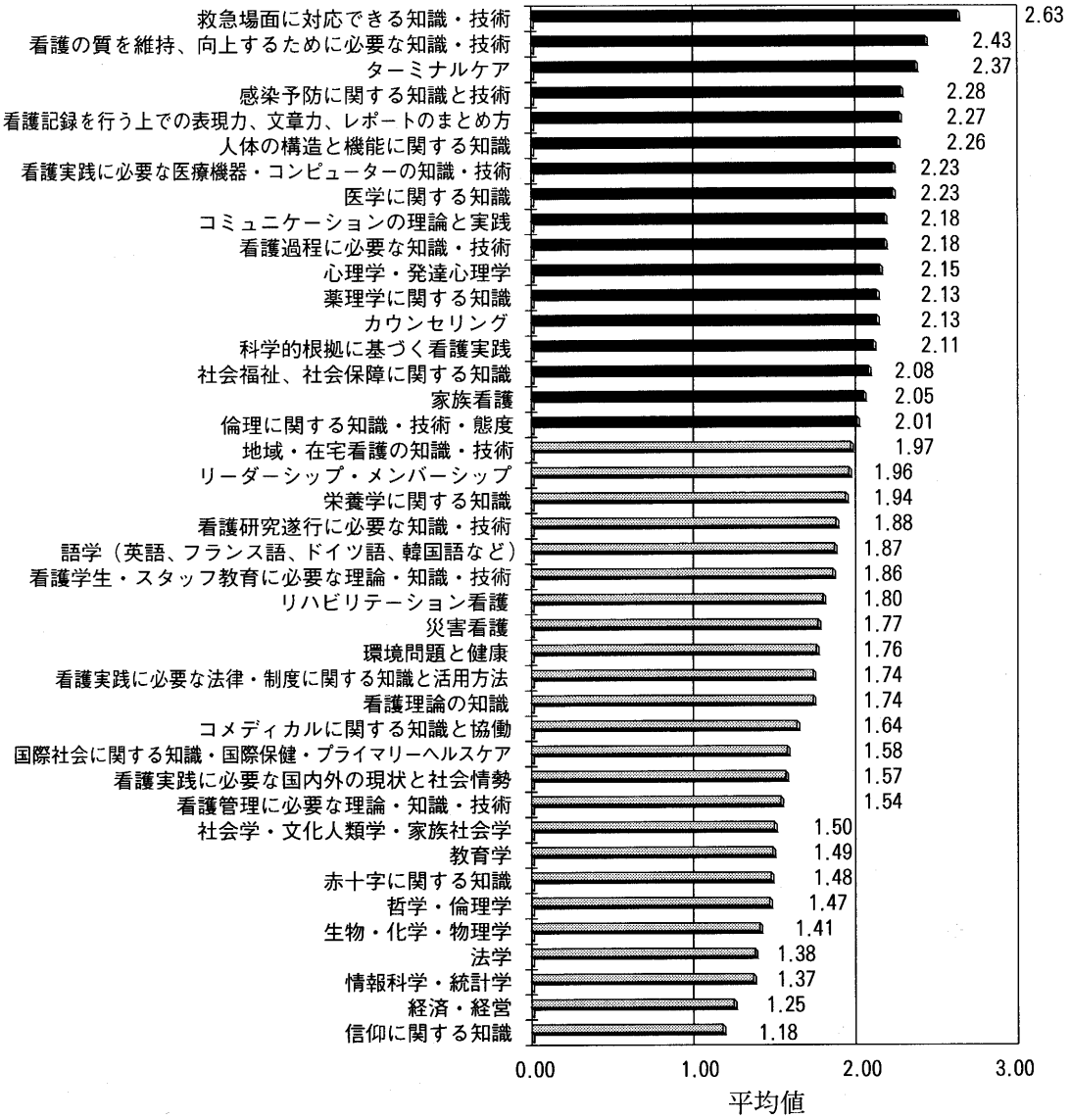

図２　学習を希望するトピックス

Ⅳ．考察

今回は、キャリア志向と社会的支援、学習ニーズの実態を分析し、考察を加える。

1．キャリア志向と社会的支援

職務満足について60.0％が「満足」と答え、また職業継続意志については65.4％が「今後も看護職を続けていきたい」と答えている。内藤らは神奈川県内24施設の看護職者3232人を対象に調査を行い、「仕事に満足している人は72.5％であり、仕事の継続意志がある人は88.0％」と報告している[5]。それに比較すると、本調査結果はやや低い傾向にある。この要因としては、職務満足について「どちらともいえない」、継続意志について「わからない」と答えた人がそれぞれ30％近く存在し、自分自身のキャリアをどのように形成していくのか、迷っている人が比較的多いためではないかと考えられる。これらの看護職が求めるキャリアニーズにも目を向けて対応や支援を考えていく必要がある。

看護職者がキャリアを形成していく上では、家族や職場のサポートは必須である。本調査においては、家族のサポート状況は比較的良好であることが明らかになった。その一方で、職場のサポートについては、職場の上司による学習活動へのサポートは得られているが、学習についての具体的なアドバイスはやや少ない傾向であった。

学習活動は業務の多忙さもさることながら、職場の雰囲気に大きく影響されるものである。職場の人間関係や学習意欲を促進するような雰囲気があると感じている人は約5割、同僚の理解も約6割がポジティブではあるが、約3割は「どちらともいえない」ということを考慮すると、学習活動を促進し、継続しやすい職場の環境作りが必要である。

学習状況については、院内外の研修会参加、専門書の購入など、学習活動はかなり行なわれていることがわかった。しかし、学会参加の割合は、全国のN系病院7施設を対象とした調査結果[6]では、学会に「よく参加する・時々参加する」と答えた人が40.0％であることに比較すると、本調査の24.9％はかなり低い。

これらから、対象者の研修会や学習意欲は高いが、主体的活動としての研究活動や学会参加は低調と言える。その理由には学会開催地が首都圏だけでなく遠方の各地で開催されることが多いため、九州沖縄という立地条件から学会参加をしにくくしているとも考えられるが、その要因を探ることは今後の課題としたい。

2．学習ニーズ

a．取得したい学位や資格

取得したい学位や資格では9割の人が「専門看護師」、8割の人が「認定看護師」を希望しており、何らかの専門領域を実践的に究めたいという思いの表れであると考えられる。

しかし、日本看護協会が認定する「専門看護師」のための受験資格は、5年以上の実務経験に加え、看護系大学院修士課程を修了し、特定の学修と単位取得が条件である。ところが6割の人が「現職のまま今の仕事に必要な学習を進めたい」と答えている現状や、2003年現在全国で71名の専門看護師のうち九州では2名であることを照らし合わせてみると、十分に現行制度が理解された上でのニーズというより、漠然とした希望レベルではないかと推察される。

本調査の「専門看護師」の希望のうちで最も多い「がん看護」、「認定看護師」の中の「救急看護」に関しては、臨床現場での切実なニーズを反映した結果であろうと考えられる。その背景にはわが国の死因第一位が悪性新生物（平成13年度死亡総数に対する割合31.0％）[7] であり、なお増加の傾向を見せていること、入院期間が短縮化に向かう一方で患者の生命に直結する救急医療のニーズが高まっていることがある。九州ブロックN系列病院は各地域における医療ならびに災害基幹・拠点病院という重要な役割をおっている機関であり、その重責を担う多くの看護職者が抱く学習ニーズはかなり高いことが強く示唆された。

これらの「専門看護師」「認定看護師」の育成は、質の高い看護を提供していく上でも、今後、推進されるべき重要課題であり、そうした資格取得をサポートできる職場の体制づくり、看護界の体制づくりがよりいっそう求められるであろう。

今回の調査対象では看護学士取得者は2.7%（13人）であったが、学位取得のニーズは現状ではそれほど高くないことが示された。しかし今後の看護系大学の増加に伴い、大卒の看護職者が臨床現場にも増えていくことが見込まれ、それに応じて学位取得の希望も変化していく可能性があると思われる。

b．学習を希望するトピックス

希望する学習トピックス41項目の内容をみると、上位4位までの「救急場面に対応できる知識と技術」「ターミナルケア」「感染予防に関する知識と技術」や、「看護記録を行う上での表現力、文章力、レポートのまとめ方」「看護過程に必要な知識・技術」は看護実践に不可欠な切実なニードである。

また、2位の「看護の質の維持向上のために必要な知識と技術」や「人体の構造と機能に関する知識」「科学的根拠に基づく看護実践」「医学に関する知識」「薬理学」などは、看護を支える知識技術に関するニードであり、「看護実践に必要な医療機器・コンピューターの知識・技術」は現実的な問題であろう。

一方、「ターミナルケア」「コミュニケーションの理論と実践」「心理学・発達心理学」「カウンセリング」「倫理に関する知識・技術・態度」などの、対象理解、人間的な尊厳に基づくケア、人と人との関係性を大切にしながらケアを提供していくために必要となるトピックスもかなり多い。これは、今日の多様化する価値観、増大

するストレス社会の中で、これまで以上に複雑で難しい問題を抱えた対象者に対応していくことが求められていることの表れでもあり、人間的な尊厳に基づく質の高いケアを提供していきたいという看護師の思いの表れであると考えられる。

これらより、科学的な看護を志向する看護界の動きを受け、現場で働く看護職においても、その必要性を感じつつ実践をしていることが推察された。

V. 結語

今回、九州ブロックN系列9病院の看護職者を対象に「看護職者のキャリア形成に向けた学習ニーズ」の調査・分析を行った。その結果、以下のことが明らかになった。

1）本研究対象者のキャリア志向については、約6割以上が職務満足が高く、今後の職業継続意志を持っているが、わからないなど迷っている人も3割程度存在していた。

2）社会的支援は、家族のサポートは良好で、職場のサポートは学習意欲を促進するような雰囲気、同僚の理解などは今後の環境作りが求められる。

3）学習状況については、院内外の研修会参加や専門書の購入など学習活動はかなり行われているが、学会参加については全国レベルに比較して少ないという傾向であった。

4）取得したい資格に9割の人が「専門看護師」、8割の人が「認定看護師」を挙げ、中でも「がん看護」「救急看護」が多かった。「専門看護師」「認定看護師」制度は正しく理解されていないが、質の高い看護を提供したいという思いやニーズが高いことを表していると思われる。

5）学習を希望するトピックスには、医学的知識に関するもの、人間の尊厳・倫理に関すること、人間関係において質の高いケアに関するもの、科学的な看護を志向する項目が多かった。

おわりに

本調査において九州ブロックN系列9病院の看護師がさまざまな学習ニーズをもち、キャリア形成への意欲や努力が大きいことがうかがわれた。本学もそれに応える責務がある。第3回日本赤十字看護学会学術集会（2003年）では継続教育についてのシンポジウムが行われ、キャリア開発支援についても取り上げられ、看護指導者の育成には単位取得を積み重ねていけるコースを提供してほしいという提言が出された[8]。

本学としても常に看護基礎教育の充実と改良を探るだけでなく、臨床現場と連携をさらに強めながら、たとえばリカレント教育や既卒者の進学（編入）制度を容易にする、大学院設置や継続教育のための研究研修所設置など、何らかの対応をしていかなければならないといえよう。

本調査は現状把握が中心であり、回収率も必ずしも高いとはいえず、この調査結果を一

般化するには限界がある。今後とも継続的な調査を積み重ね、各要因間の分析を通して多様化、複雑化する看護職者の学習ニーズの構造を明らかにしていきたい。

謝辞

本研究に快くご協力いただきました各施設の看護部長、病棟師長をはじめスタッフの皆さまに心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

1) 看護行政研究会監修、平成16年版看護六法、新日本法規 2004年

2) 平井さよ子、看護職のキャリア開発－変革期のヒューマンリソース マネージメント、日本看護協会出版会、p.39、2002年

3) 舟島なをみ、看護教育学研究—発見・創造・証明の過程—、医学書院、2002年

4) 本田多美枝、「看護の専門的能力」の視点からみた院内教育ニーズの分析、日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士論文、1999年

5) 内藤雅子他、看護職者の生涯学習ニーズとその支援システムに関する研究-その3）看護職者の生涯学習ニーズと支援状況、第20回日本看護科学学会学術集会講演集、262、2000年

6) 前掲4）

7) 厚生統計協会、国民衛生の動向・厚生の指標－臨時増刊、第50巻第9号、廣済堂 2003年.

8) 二宮由美子、臨床現場における看護指導者の計画的育成の現状と課題、第3回日本赤十字看護学会学術集会シンポジウム、日本赤十字看護学会誌、第3巻、第1号、36-39、2003年

なお本稿は平成14年度奨励研究（02－17）の報告ですが、既に日本赤十字看護学会誌に投稿中の原稿に加筆修正したものです。